

日本鉄鋼協会記事

理 事 会

第10回理事会 開催日：1月23日。出席者：佐野会長
他 35 名。

会議事項

1. 名誉会員推挙に関する件
Roche (AISI President) を今春名誉会員に推挙することを理事会として決定し、2月に開催の評議員会にかけることとした。
2. 通常総会招待者に関する件
Putnam (ASM Secretary general), Taylor (AIME Secretary general), B. Trentini (IRSID director) 上記3氏を今春の通常総会に招待することを承認した。
3. 国連、工業開発機構(UNIDO)の鉄鋼業に関する第2回地域間シンポジウムに参加要請に関する件
通産省よりの話では後進国開発のための技術関係シンポジウムで政府の代表者が出席するか検討中でありエキスパートが数人派遣できれば幸いである。ペーパーを提出し、参加方願うよう話をすすめる。
4. 第12回材料研究連合講演会参加に関する件
期日 43年9月2日, 3日
会場 京都大学工学部土木総合館
共催分担金 1口(5千円)
運営委員 田中実君
5. 1968年度学術関係国際会議出席候補者推薦の件
五弓勇雄(東大教授)君を推薦することを承認

企 画 委 員 会

第10回委員会 開催日：1月16日。出席者：吉崎委員長、他 11 名。

会議事項

1. 名誉会員推挙に関する件
Roche AISI President を今春名誉会員に推挙のことを企画委員会として決定。4月2日特別講演を行なう。
2. ASM 1968 Material Engineering Exposition に参加する件
従来日本よりあまり出品されていないので各方面に働きかける。電子顕微鏡、分析機器については日本分析機器工業会に話している。
3. 国連工業開発機構(UNIDO)の鉄鋼業に関する第2回地域間シンポジウムが開催され日本より少なくとも1名出席し鉄鋼業の経済的分析、再建および近代化等のレポートを提出してほしい旨の要請がきている。会議の内容がよくわかりかねるので外務省に確かめることになった。

研 究 委 員 会

第9回委員会 開催日：12月19日。出席者：三本木委員長、他 17 名。

会議事項

1. 報告事項
事務局より第6回技術講座小委員会、共研運営委員会、鉄鋼技術国際会議について報告があった。
2. 教育問題について
業界主脳部の方々にご出席いただけて行なつた教育懇談会について専務理事より報告があり次回よりこの問題をどう取り扱うかについて検討を進めることになった。
3. 大型プロジェクトについて
当委員会の下に大型プロジェクト小委員会を設け、43年6月に通産省に答申することを目的としてテーマの選定等を行なうことになった

第10回委員会 開催日：1月23日。出席者：佐野会長、三本木委員長、他22名。

会議事項

1. 報告事項
第1回大型プロジェクト小委、第7回技術講座小委、基礎問題小委の報告が行なわれた。このうち第1回西山記念技術講座は「鉄鋼精錬の基礎反応」をテーマとして行なうことが了承された。
2. 基礎研究関係
微量元素部会より43年度鉄工業技術試験研究にパナジウムをとりあげた旨報告があり了承された。なお試験研究費総額は約1500万円の予定。
3. 教育問題について
討議の結果、小グループを作つて今後の進め方について検討を行なうことになった。

編 集 委 員 会

第12回和文会誌分科会 開催日：2月13日。出席者：荒木主査、他13名。

会議事項

1. 論文審査報告
2. 第54年第5号(4月号)掲載論文選定について。
論文4件、技術資料2件が掲載決定。
3. 論文別刷料金について
事務局提出の資料により検討し、承認された。
技術資料類は現状どおり20部寄贈、論文については寄贈をなくし、有料とすることに決定した。

第11回欧文会誌分科会 開催日：1月24日。出席者：橋口主査、他15名。

会議事項

1. 原稿審査報告
論文8件が掲載可と決定。
2. 投稿勧誘論文5件の勧誘が決定。
3. 会長以下役員紹介記事の体裁が決まり、8巻1号に掲載されることになった。
4. Transactions ISIJ 海外発送について。

鉄鋼協会に寄贈されている学術誌のなかから本誌と交換にするものが選択された。新しく購読勧誘状を送付することについてはまた検討することになった。

第12回欧文会誌分科会 開催日：2月21日。出席者：橋口主査，他6名。

会議事項

1. 原稿の審査報告
掲載可と決定した論文6件。
著者に訂正を依頼する論文4件。
2. 投稿勧誘論文3件の勧誘が決定。

第11回出版分科会 開催日：2月23日。出席者：佐藤主査，他9名。

会議事項

1. 分塊分科会報告書刊行について
「わが国における最近の分塊技術の進歩」として発行することに決定。
2. 技術講座叢書の刊行について
技術講座小委員会からの提案に基づき審議したが，技術講座は up-to-date な内容を扱っているのので，叢書とするには問題があり，技術講座小委員会で再度検討することになった。
3. 「鉄鋼便覧」編集について
刊行を計画中であるが，出版計画の参考にするため目次についての意見の問い合わせを編集委員全員にすることになった。

資 料 委 員 会

第8回委員会 開催日：2月2日。出席者：草川委員長，他13名。

会議事項

資料室のあり方について

1. 会員が協会資料室に何を望むか調査する。
(1) これについては次回までにアンケート案を作成する。
(2) 協会資料室と情報活動に関する講演会や座談会を開き利用者との交流を計る。
2. 資料室の存在を強力にするために長期計画とそれに応じた年度計画をたて協会の情報活動を充実する。
3. 今までカタログ，図書，雑誌等の整備に重点を置いていたが，本年度から，さらに協会内発生資料の整備を完全にする。
4. 図書購入に際しては Hand Book 規格類について優先購入することを決定した。

規格については標準化委員会の依頼もあり，FS.MIL.MOCT. NDS (日本防衛庁規格) の鉄鋼関係の規格について購入することを決定した。残りの規格については順次整える。

評 議 員 逝 去

本会評議員，日本苦土工業(株)社長井村竹市君が2月3日心筋硬塞により逝去せられました。

ここに同君の冥福を祈り，つつしんで哀悼の意を表します。

共 同 研 究 会

製 鋼 部 会

第38回製鋼部会 開催日：11月20，21日。出席者：池田部会長，他130名。

会議事項

従来通りの6議題について各社資料に基づいて研究発表および質疑応答がなされた。2日目の午後は，和歌山製鉄所第4高炉，第2分塊，第2製鋼，第4製管工場の見学を行なった。なお部会長より，国際会議のテーマを選択しているのので，協力要請があつた。

電 気 炉 分 科 会

第1回分科会 開催日：12月18日。出席者：松本主査，他18名。

会議事項

1. 共通テーマ「工場概要と電気炉製鋼における問題点」について各社が設備生産量，鋼種，人員，レイアウト，原料処理，電気炉機構，電極，耐火物，溶解造塊などの発表を行なった。
2. 今後の部分運営について
運営のため幹事会を設けることとし，次の各社に幹事を引き受けていただくことになった。
日鋼，東芝，三菱，大同，トピー，日砂鉄
今後，各社の工場において年3回程度開催し，原料処理の現状と問題点，溶解能率の強化，電気炉の機能的問題点と改良，設備保守と修理補修，作業管理，CPC，除じん装置などについて研究発表を行なうことになった。

鋼 板 部 会

分 塊 分 科 会

第25回分科会 開催日：12月4，5日。出席者：永江主査，他83名。

会議事項

今回は自由議題はなく，共通議題「ロール原単位の向上対策」について各社提出資料により報告され討議された。
2日目は新鋭の水島製鉄所分塊工場を見学した。なお最後に今後の運営方法について，自由議題を設けるとか共通議題の後処理等について討議されたが，新ためて在京委員会を開き検討することになった。

条 鋼 部 会

線 材 分 科 会

第25回分科会 開催日：11月27，28日。出席者：有沢主査，他51名。

会議事項

1. 工場作業実績表について
各社より，42年7～9月の工場作業実績を報告，質疑応答がなされた。
2. 品質向上，能率向上に資する問題について
各社，改善実績と，その効果等につき報告された。
3. 鋼片手入について
各社自社の状況について，手入設備，手入方法，検査

選別方法等について報告された。

4. 線材コイルの結束方法について

アンケート方式により、各社の現在実施している小結束の状況について調査していたが、その結果が担当委員より報告され討議された。

5. コイルの端末切捨基準について

アンケート方式により、端末捨量、作業者、切断場所切断器具、防熱対策について、調査していたがその集約結果につき担当委員より報告され、討議された。

鉄鋼分析部会

化学分析分科会

第7回分科会 開催日：1月17, 18日。出席者：神森主査，他37名。

会議事項

現在 JIS 改正原案の審議を行なっているがその進捗状況は次の通りである。

1. C, Si, Mn, P, Cr については原案を工技院に提出済で3月中旬に専門委員会が開催される。予定。
2. Cu, As, Co, Sn, V, W, Al, Ti については最終案文を承認。
3. S, Ni, Mo, B, N, Pb については次回の分科会(3月中旬)にて最終案文を審議する予定。
4. その他の成分については共同実験中。

ほたる石分析小委員会

第4回小委員会 開催日：1月19日。出席者：村岡小委員長，他16名。

会議事項

1. 前3回の委員会でまとめた。鉄鋼用ほたる石の JIS 原案を審議し、小委員長のもとで修正案を1月末までにつくり審議経過報告書と共に JIS 案として提出することになった。

2. 今後の運営について

各委員の意見を集約した結果、当面の課題である鉄鋼用ほたる石分析方法 JIS 原案の審議作成が完了したので今後問題が生じた場合は親部会にはかつて処理することを申し合せ、小委員会は解散することになった。

鉄鋼生産設備能力調査委員会

第8回委員会 開催日：2月1日。出席者：沢村委員長，他38名。

会議事項

各部会、分科会より鉄鋼生産設備の能力算定方式最終案の報告があり、次の答申案を審議決定し通産省に答申することになった。

- 1) 製鉄設備能力算定方式
- 2) フェロアロイ電気鉄設備能力算定方式
- 3) 転炉設備能力算定方式
- 4) 平炉設備能力算定方式
- 5) 連続加熱炉能力算定方式
- 6) 分塊設備能力算定方式
- 7) 厚板生産設備能力算定方式
- 8) ホットストリップ生産設備能力算定方式
- 9) コールドストリップ生産設備能力算定方式

11) 帯鋼生産設備能力算定方式

12) 大形生産設備能力算定方式

13) 中小形生産設備能力算定方式

14) 線材生産設備能力算定方式

15) 継目無管生産設備能力算定方式

16) 溶接管生産設備能力算定方式

鋼板部会

第4回分塊設備分科会 開催日：12月5日。出席者：永江主査，他28名。

会議事項

前回提案された簡略式の比較検討を再度行なうために新たに各社に求めた生産実績を基に幹事が修正作成した簡略式に対して最終的な検討を行ない答申式を決定した。

また加熱炉関係として、連続式加熱炉に“大形”の式を適用した場合の特殊鋼係数についての検討結果が資料により報告され検討された。

最後に分塊分科会関係として取りまとめを行なっていたキズ名称統一案について幹事がまとめた資料について検討を行ない若干の修正を加えて素案とすることに承認された。

第5回分塊設備分科会 開催日：1月18日。出席者：永江主査，他20名。

会議事項

前回まで能力算定方式の骨子ができたのでこれに基づいて幹事が作成した最終答申書案について検討し、若干の訂正補足を行ない承認され、審議を終了した。

第8回ホットストリップ設備分科会 開催日：1月12日。出席者：吉田主査代理，他17名。

会議事項

ホットストリップ生産設備能力算定方式の、答申原案を当分科会として、承認するために、第8回ホットストリップ設備分科会を開催した。答申原案について審議の結果、通産省へ提出する答申案として、承認した。

第8回コールドストリップ設備分科会 開催日：1月25日。出席者：吉田主査代理，他11名。

会議事項

コールドストリップ生産設備能力算定方式の答申原案を当分科会として、承認するために、第8回コールドストリップ設備分科会を開催した。答申原案について審議の結果、一部訂正および文章の追加などを行なつて、通産省へ提出する答申案として、承認した。

標準化委員会

第22回普通鋼分科会 開催日：2月13日。出席者：山岡主査，他16名。

会議事項

JIS 1号引張試験片の変更に伴う各種鋼材規格の伸び値の検討

試験片の変更は昭和43年4月1日より実施されるが、これに関連した規格の変更をどのような形で行なうかについて審議された。

主な考え方としては

1. 伸びを現行のままとし試験片を旧1号から新1A

号に変更する。

2. 伸値、試験片の両方とも変更する。
の2案が出されたがまとまらず各自、社内に持ち帰って検討した後どちらにするかを主査あて返事することになった。

なお 1. 案に決定した場合には鉄鋼部会に諮り、2. 案に決定した場合には各専門委員会で審議した後鉄鋼部会に諮ることになっている。

第14回特殊鋼分科会 開催日: 1月18日: 出席者: 西主査, 他14名。

会議事項

1) 規格協会より委託された JIS 特殊規格見なおし要否について当分科会の担当分について最終審議を行ない、次のような内容の答申案を作成した。

硫黄快削鋼, 高炭素クロム軸受鋼, 中空鋼炭素工具鋼, 合金工具鋼, ピアノ線材の順に見直しを要する。その他 Ni-Cr 鋼鋼材, Ni-Cr-Mo 鋼鋼材, Cr-Mo 鋼鋼材も見直しを要する。また、各規格に共通する修正事項として規格名称, 化学成分の試料, 備考, 外観検査などの項目中文字句修正が必要である。

2) 鋼材の検査通則素案について、鋼材の検査通則原案分科会素案作成小員会の幹事会社神鋼より改正素案の説明があった。

3) JIS 特殊鋼分類体系について

幹事より分類体系案の説明があり、次回さらに審議することになった。

第3回ぶりき分科会 開催日: 1月24日。出席者: 安藤主査, 他24名。

会議事項

前回のぶりき分科会で、審議された第1次ドラフトに対する各社のコメントをまとめて、幹事会社において第2次ドラフトを作成し、今回のぶりき分科会に提出した。この第2次ドラフトについて、「適用範囲」、「種類および呼び方」、「原材料成分」、「品質」、「外観および表面仕上げ」、「寸法および形状」について審議した。

第1回線材分科 開催日: 11月16日。出席者: 川端主査, 他11名。

会議事項

1. JIS G 3503 被覆アーク溶接棒心線用線材, および JIS G 3523 被覆アーク溶接棒心線の見直し

1964年改正時の懸案事項および各委員指摘の問題点より、次の事項について検討された。

(1) Mn 規格値の変更について

(2) S 規格値の数値のラウンド化について

(3) 化学分析方法を製品分析よりレードル分析に変更する件について

(4) 線材規格と心線規格の1本化または心線規格の廃止について

2. JIS G 3502 ピアノ線材の見直し

特殊鋼分科会での検討事項を引きつぎ、各委員よりピアノ線材, 硬鋼線材, 軟鋼線材の取引規格の実状と JIS の問題点を聴取したが、事前の連絡が悪く、準備不十分のため、あらためて各社にアンケートすることになった。

第2回鉄鋼用語原案分科会 開催日: 1月31日。出席者: 長谷川主査, 他30名。

会議事項

各分担の担当者から提出されたものを集録した。用語分類(案)について討議し次の結論を得た。

1. 全般的な撰択の基準

各用語の比重に応じて体系的に分類する。具体的な用語の配列撰択の限度は各グループ討議に依頼する。

2. 細部は各グループ討議に依頼するが全体の思想統一をはかるため各用語グループについて撰択の基準と討議を行なった。(その詳細については省略)

第2回鋼のサルファープリント試験方法規格原案分科会 開催日: 11月17日。出席者: 小犬丸主査, 他11名。

会議事項

前回の再確認も含めて、各社から聴取した実施状況の見直しを行ない整理した。またサルファーの分布状況として正偏折, 柱状偏折, 点状偏折, キルド鋼, リムド鋼, 逆偏折のような分類に分けその各々についてのプリントを各社より逐次提出してもらうことになった。

第3回鋼のサルファープリント試験方法規格原案分科会 開催日: 12月15日。出席者: 小犬丸主査, 他13名。

会議事項

前回までの検討をもとに、主査が作成した素案について検討したが、用語および内容を若干変更することになったので改めて次回書きなをして最終素案としての承認を得ることになった。

また付図として用いるサルファープリントの代表写真については、今までに各社から種々提出されたので次回に適したものを撰択する。

第4回鋼のサルファープリント試験方法規格原案分科会 開催日: 1月19日。出席者: 小太丸主査, 他12名。

会議事項

前回の検討に従って訂正した素案について最終の見直しを行なったが、イオールの分布例に線状偏折を追加することで答申原案とすることになった。また付図に使用する写真として各社から提出してもらったサルファープリントの中から代表的なものを選択した。

以上を事務局でまとめて答申原案を作成し、承認は書面審議にて行なうこととし、今回をもつて原案作成審議を終了した。

第3回 JIS 低温圧力容器用鋼板規格原案分科会

開催日: 2月12日。出席者: 金沢主査, 他22名。

会議事項

幹事会社の提出した規格案の原案をもとに各項目別に検討された。

1. 適用範囲について

冷凍器材料の扱いについて検討が行なわれたが決まらず結局この問題は日本冷凍協会に検討を依頼することになった。

2. 鋼種について

Al キルド鋼を4種に絞ることとし1種 B は削除することになった。

3. 強度標示について

降伏点表示を採ることになったが、これに関連して圧力容器用鋼板規格が抗張力表示を採っていることが問題になり、降伏点表示に統一するよう圧力容器用鋼板規格原案分科会に申し入れることになった。

なお、衝撃値規定法に関しては日本溶接規格の改正結

果に従うことになっていたが、本分科会では吸収エネルギー値によるのがよいとの結論に達しこの旨申し入れることになった。

第1回 JIS エリクセン試験方法および曲げ試験関係原案分科会 開催日: 12月1日. 出席者: 吉沢主査, 他20名.

会議事項

審議を進めるに当たり、各委員より、現状の問題点の聴取を行なうとともに、今後の打合わせを行なった。

曲げ試験関係については、あまり問題はなさそうであるがエリクセン試験方法に関しては、問題が多く、ISO方式を取り入れるべきとの意見が多く、大幅の改正が必要となろう。

なお今回提起された問題点や、また新たに気の付いた点を加味して次回までに具体的な意見を出してもらいこれに基づいて逐条審議を進めていくことになった。

第2回 JIS エリクセン試験方法および曲げ試験関係原案分科会 開催日: 1月16日. 出席者: 吉沢主査, 他21名.

会議事項

各委員からアンケートにより求めた具体的な意見をもとに旧 JIS を逐条審議し、素案の骨子をほぼ決めたので、主査が次回までに素案を作成して検討することになったが曲げ試験方法におけるVブロック法の取り入れ方およびエリクセン試験におけるJSO方式の取り入れ方などについては次回に保留された。

第3回 JIS エリクセン試験方法および曲げ試験関係原案分科会 開催日: 2月9日. 出席者: 吉沢主査, 他21名.

会議事項

前回までの検討をもとに主査が作成した素案について検討し、原案の作成を行なった。

またエリクセン試験方法については、潤滑材として従来のワセリンをグラファイトグリースに変更することになったが、その根拠を明らかにするため、グリースの種類と国産品の品質を確認する目的で比較試験を行なうことになった。

なお ISO 相当のグラファイトグリースを以前試作したことのあるメーカーに来てもらい説明を聞いた。

第2回 TC17 WG4 分科会

開催日: 11月15日. 出席者: 鈴木主査, 他12名.

会議事項

1. ステンレス鋼, パルプ鋼について

ステンレス鋼, パルプ鋼について、日本の comment 提出後、外国の意見入手したので、再度討議の上、second comment を出すこととした。

2. ばね鋼について

各国の意見および国内大手各社の実績などが報告され会議にのぞむ日本の態度について再検討を行なった。

クリープ委員会

クリープ試験分科会

第4回分科会 開催日: 12月12日. 出席者: 平主査, 他33名.

会議事項

1. 試験研究小委員会報告

通産省補助金により実施している「高温圧力容器用耐熱材料の高温特性の研究」について、中間報告がなされた。

2. 第2回共通高温引張試験の実施について

先にアンケートにより、標記共通試験の実施について意見を求めていたが、その結果をまとめた資料にもとづき討議がなされた。

3. スペシメンバンク材の確認試験実施方案について

ステンレス協会での確性試験に引き続き鉄鋼協会に納入後の確認試験につき小委員会案が報告され討議された。

4. 国際共通試験用熱伝対の検定実施方案について

同試験に使用する熱伝対は、すべて同一試験上で検定することになっていたが、試験本数がきわめて多数になるため、再検討を要する旨提案され討議された。

金材技研クリープデータ連絡分科会

第3回分科会 開催日: 1月26日. 出席者: 田中主査, 他17名.

会議事項

金材技研で作成するクリープデータシートの鋼種として来年度要望するものをガスタービン関係の鋼種を以下の方針で審議を進め、

1. 現在使われているものに限らず、将来必ず使われると予想される鋼種を考慮する。

2. ファブリケータからの発注チャンスのある鋼種を優先するがそのみに限らない。

3. 材料メーカーは製造実績のあるところに限る。ただし、納入実績について試作品でもよい。

以下の鋼種を決定した。

A 286, X 45, Inco 713C, Inconel 700

S 590, STPA 26 (化学関係の追加)

試験高炉委員会

第11回委員会 開催日: 2月2日. 出席者: 辻畑委員長, 他20名.

会議事項

昭和42年7月～8月にかけて実施された第18次試験操業の結果報告と昭和43年に行なう第19次試験操業のテーマの検討を行なった。

第18次操業では粒度の小さい原料（平均粒度鉍石 3・9 m/m dia, コークス 6m/m dia）を用いて送風限界の調査を行なった。その結果次のことがわかった。

1. 低送風段階から装入物の流動ないし吹抜けが起こっている。

2. スラッシング領域に推移する風量が限界になる。

3. その他

第19次操業はフラッシングとスラグ成分およびスラグ量との関係、高炉用耐火煉瓦についての調査を行なうことに意見の一致をみた。

鉄鋼基礎共同研究会

第7回非金属介在物部会 開催日: 2月2日. 出席者: 荒木部会長, 他39名.

会議事項

1. キルド鋼分科会昭和41年度補助金による共同研究終了報告

2. キルド鋼分科会昭和43年度活動計画

下記3テーマを中心に活動することに決定した.

1) 凝固と介在物の生成機構 (Mg または Ca 添加による混在介在物の生成機構)

実験担当 東北大 三本木教授

2) 特殊脱酸脱窒添加の鋼塊における介在物の挙動 (Ti, Zr添加による窒化物の挙動)

実験担当 東工大 後藤助教授

3) アルミナクラスター生成機構の解明

実験担当 名大 佐野教授

3. リムド鋼分科会課題研究経過報告

8のテーマにつき報告が行なわれた.

4. 特別講演「リムド鋼中の非金属介在物について」

講師 八幡製鉄技研 梶岡博幸

第7回転位論グループ連絡会 開催日: 10月25日. 出席者: 橋口世話人, 他6名.

会議事項

1. 鉄中の微量C, N, Oの粒界割れ, 降伏強度に与える影響について

本田委員より, 標記研究について報告があり, 種々討議された.

2. 多結晶の圧延組織について

幸田委員より, 研究発表があり, 討論された.

第3回純鉄グループ連絡会 開催日: 12月11日. 出席者: 草川世話人, 他21名.

会議事項

1. 純鉄グループ予算決定について

世話人より純鉄グループに対し昭和43年度に特別研究予算として 98 万円が協会より交付される旨報告があった.

2. 研究発表

1) 東大生研. 大蔵氏より「鉄 whisker の製造と若干の性質について研究発表があった.

2) 石川島播磨の谷岡氏より「 α 鉄の降伏応力におよぼす酸素および炭素の影響」について研究発表が行なわれた.

3) 川鉄, 今中氏より「低炭素鋼の歪時効」に関する研究発表があった.

3. 本グループに研究予算がついたので共同研究テーマの決定について協議された. この結果, 共通テーマとしても各人が可能であり, しかも比較的自由度のある研究を行なう方式がよいということになった. そこで世話人会で案を作成し, アンケートを採り, 次回までに結論を出すことになった.

鉄鋼技術国際会議

第1回実行委員会 開催日: 1月22日. 出席者: 湯川組織委員長, 橋口実行委員長, 吉崎財務委員長, 他21名. 会議事項

1. 準備委員会, 組織委員会による国際会議の名称, 会期, 開催場所, 開催セクション, 使用用語, 講演会構想, 予算, 運営組織などにつき橋口実行委員長より経過報告があり, 国際会議の性格として, 新しい技術の交流であると話われた.

2. 開催セクションのテーマについて

荒木委員より準備委員会におけるテーマ選定の経過報告があり, 今後技術委員会で選定を進めることになった.

3. 国際会議のアブストラクト, プレプリント, フルペーパーなどの募集締切, 発行などのタイムスケジュールについて金属学会方式, IDDRG 方式などについて橋口委員長より説明があり, 今後検討を続けることになった.

4. ファーストサーキュラーについて

ファーストサーキュラーの発行スケジュール, 様式について橋口委員長より説明があり, 今後技術委員会で具体化することになった.

新入会員氏名

(昭和43年1月1日~31日)

維持会員

小名浜製鉄(株) 小名浜製鉄所
小松インターナショナル製造(株)
(株)新潟鉄工所
炉材工業(株)

正会員

子安 健郎 川崎製鉄(株)千葉
森 徳明 “ “
住田 則夫 “ 技研
花井 健夫 富士製鉄(株)名古屋
百合岡信孝 “ 広畑
大槻 孝 八幡製鉄(株)堺

長谷川 猛 (株)神戸製鋼所
百々太一郎 (社)新日本鑄造協会
光岡 与一 鳥野工業(株)
池田 洋己 共英製鋼(株)
細田 正 三菱金属鉱業(株)
大塚 信彬 日本冶金工業(株)
白石 祐 東北大学選鉱製鉄研究所

学生会員

木下 新也 東京大学大学院
冶金課程
白橋 忠臣 京都大学工学部
金属加工科

堀尾 正毅 名古屋大学大学院
工学研究科
入住 章雄 九州工業大学
金属工学科

外国会員

S. A. Forges de (Belgium)
Clabecq
Aldo Vivaldi (Italy)
Library, Univers- (U.S.A.)
ity of Missouri
at Rolla